

3～5歳で保育園・幼稚園に行っていない子どもは382人 子どもの貧困対策の第一は、乳幼児に質の高い 保育・教育を提供することである



と、世界各国の調査研究で明らかになっている。日本では、子育てに熱心に取り組む層とそうでない層とに格差が広がっている。熱心な親は、赤ちゃんの目を見て、いっぱい語りかけ、寝るときは絵本を読むなど子どもの感性を育てていく。一方、授乳中も、公園で子どもと遊んでいる時も携帯電話やスマートフォンを離さない親たちがいる。携帯ゲームの画面に子守りをさせている親もいる。区が絵本を提供しても、実際に読み聞かせをしているかどうか分からない。

区の提供している乳幼児への保育・教育がすべての子どもに提供されているかの検証が必要ではないだろうか。

1

0～3歳対象のはいはいタイム等（ふれあい館・図書館・保育園・幼稚園など）の参加率の把握・参加者の増加策は？

区：参加率の把握は難しい。参加したくなるようなメニューを考え、広報していく。

3

3～5歳で保育園・幼稚園に行っていない382人がどうしているかの把握は？

共同保育に取り組む自主保育グループへの支援の強化が必要ではないか。

区：在宅育児家庭やこどもたちの状況把握に努め、支援したい。

5

保健室での朝ごはん欠食児童の支援

おなかが減って保健室で休む子どもがいる以上、保健室でクッキーと牛乳などを食べさせることもあるだろう。何より、家庭の事情に応じた支援が必要ではないか。

区：子どもへの指導、家庭への働きかけにより、朝ごはんを食べる子どもの割合は増えている。今後も取り組んでいく。

6

生活保護家庭子ども支援員の配置

貧困の連鎖を防ぐために神奈川県では、子どもと接して支援する子ども支援員を配置している。区のケースワーカーはひとり100世帯を担当している。子どもと語り、励ます時間がないし、全員が子ども相手に長けているとは思えない。子ども支援員の配置が必要ではないか。

区：神奈川県の実情を把握して、検討する。



2

増加策のひとつとして「誕生日会への招待状」を全員に発送し、誘導を図るのはいかがでしょうか？

区：課題を整理して、検討する。

4

子育て仲間づくりの支援強化

保育園・幼稚園時代に子どもを預け合った子育て仲間の信頼関係は一生続く。少しいることなら、行政に頼るのではなく、友達同士で預け合う関係が、最近は減ってきている。保育園・幼稚園での仲間づくりとともに、健診や講演会、はいはいタイムなどで、時間を共にした親子達で仲間づくりができるような誘導策をおねがいしたい。

区：子育て支援ネットワーク会議を開催し、交流支援を図っている。今後はグループに参加していない家庭へも働きかけ、子育て支援の仲間づくりを支援したい。

